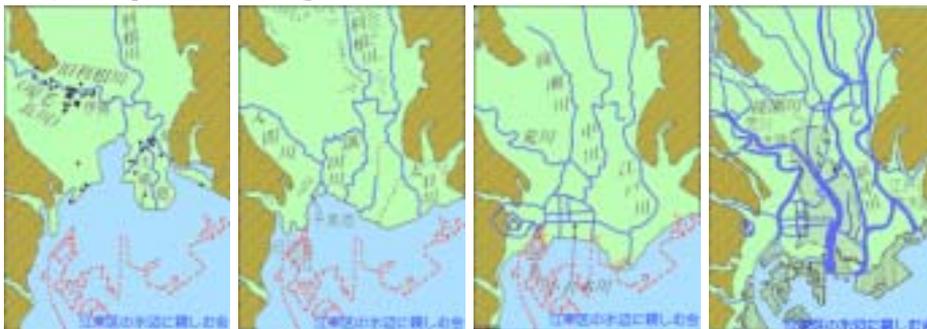


第三部 事例紹介

水辺を生かした まちづくりの展開

NPO法人
江東区の水辺に親しむ会

江東区の水辺



【古代】

江東区のほぼ全域が
海底にあった

【中世】

利根川を始めとする東
京湾に注ぎ込む多くの
川の氾濫原となる

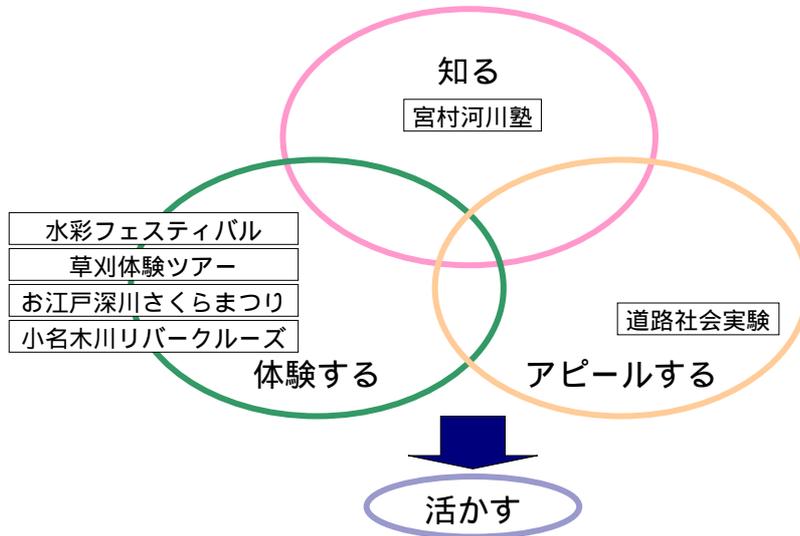
【江戸時代】

徳川家康による埋立や
舟運が盛んになり、掘
割が多く作られる

【現代】

工業化で地盤沈下や
水質悪化が進行し、水
辺空間が遠ざかってき
たが、水質が改善され
、ウォーターフロントへ
の注目されるようにな
る

当会の活動の種類



知る

宮村河川塾

全国の川の話聞く

各地の資料が集まる
日本に詳しくなる

・毎月第4金曜日
・講師: 宮村忠教授(関東学院大)

人間と川の関わり合いを学ぶ

わが地元、江東区を見つめ直す
きっかけに

【新たな展開へ】

草刈体験ツアー

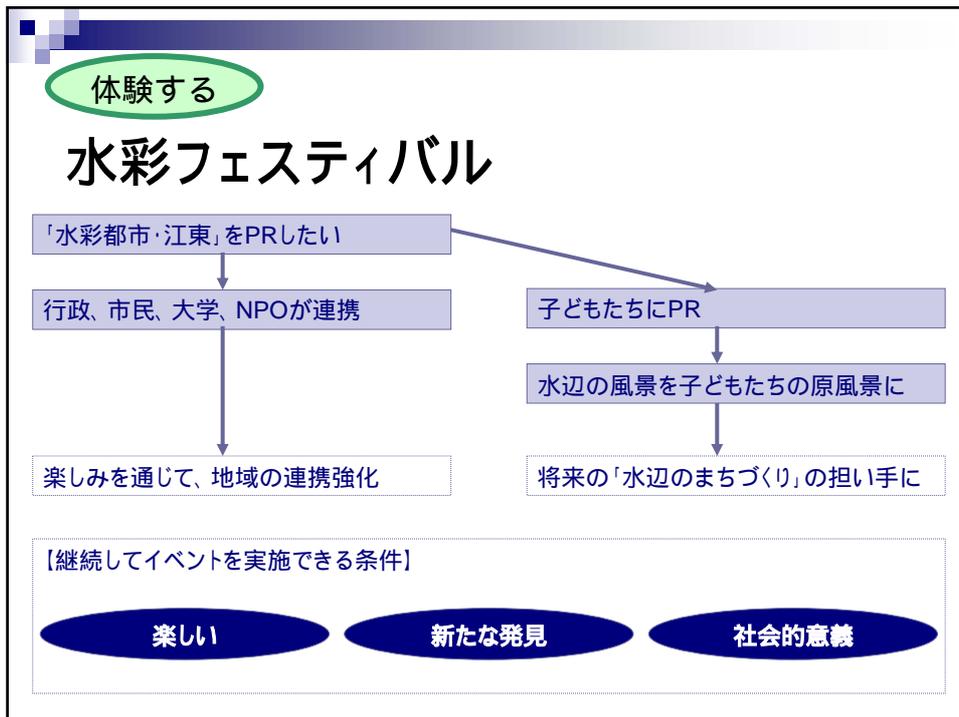
川によるスイスイ

明治丸保存

オープンカフェ



講義室にいながら、全国を旅できる



体験する

東京を守る堤防を守ろう～草刈体験ツアー～

江東区の水辺の関わり方を学ぶ「宮村河川塾」

昔の江東区民は、上流部の堤防の維持管理を手伝っていた

それを復活させたい！ = 草刈体験ツアー =

東京を守る堤防が、上流にあることを学ぶ

現地の人々との交流

上下流の交流

大人の社会見学

体験する

東京を守る堤防を守ろう～草刈体験ツアー～



利根川下流の江東区から、バスで出発



渡良瀬遊水地では、地元の方が迎えてくれます



桜堤での桜まつりは、土を踏んで堤防を固めます



菜の花を刈って堤防を守ります



堤防を管理する工事業者さんとの交流



渡良瀬遊水地の広大な敷地に驚きます



東京の治水を実現するために、谷中村は消滅した



カスリン台風の決壊場所を見学します

体験する

お江戸深川さくらまつり

災害時にも役に立つ水辺空間

普段から水辺を使おう！

地域みんなで使おう！

地域の人々が集まって、お祭りを作る

地元商店街

NPO

大学

行政

市民団体

アーティスト

神社仏閣

水辺と桜

江東・深川地域の新たな観光名所に

体験する

お江戸深川さくらまつり



散りゆく桜もまた、楽しむ



橋の上は通行人も巻き込んで賑やかに



石島橋は人が集まるマーケット



水辺の桜と新内流しは、江東区の名物



水辺の桜を絵の具に託して旗づくり



静かな和船は、水と花見とおしゃべりが楽しめる

体験する

小名木川リバークルーズ

住民の水辺に関心が高まり、
まちづくりの意見が出ることを期待

水辺を体験する機会を作る

水辺の理解者を増やす

船を運航する

水辺のガイドを養成する

リバーガイドが添乗する
リバークルーズの実施

リバーマップを作る

体験する

小名木川リバークルーズ～運航コース～



体験する

～水辺に親しむために～

まずはリバーガイドを養成



江東区東大島文化センターの協力によるリバーガイド養成講座の実施



歴史、自然、水質など、幅広く知識を習得する。



実際に声を出して、個性あるガイドを養成、水辺の理解者となる。

体験する

～水辺の体験～

リバークルーズ



ガイドさんごとに個性ある説明が好評のリバークルーズ



オープンな車窓からは小名木川の景色がよく見える

体験する

～水辺に親しむために～

水辺テラスの整備



普段、陸からはなかなか見ることのできない、小名木川の護岸。船に乗ってみると、あまり綺麗とは言えない護岸であることが分かります。

アピールする

道路社会実験

災害時にも役に立つ水辺空間

普段から水辺を使おう！

地域みんなで使おう！

(お江戸深川さくらまつり) 実際に使ってみたら...

水辺の活性化には、陸側も水辺を意識したまちづくりを

商店街、社寺、観光資源を周遊する

船と道路、他の交通機関との連携を考慮

国土交通省道路局「道路社会実験」の実施

地域住民の関心を引き出す

NPO、大学、商店街、行政が連携した事業をPR

アピールする

道路社会実験



ハンブを設置して自動車の速度抑制



首都高下の大空間はバス誘致として活用



東京海洋大学の学生さんにも協力をいただく



本部店とは地域の方々の意見交換の場



賑わいのある街の核となる深川公園



東京海洋大学の先生による寺子屋

活かす

水辺を使うということ

楽しむイベントを通じて、水辺を使いこなす



使っていると見えてくる、まちの景観

活かす

水辺から学ぶこと



地域の資源である水辺をどのように活かすか、船に乗って考える



活かす

明治丸周辺整備の可能性

地域のシンボルである、明治丸(国重要文化財)



周辺のまちづくりと連動した、明治丸の保存と、水辺の魅力作り



河川文化の再発見と創造への活動
ーエコミュージアムへの取り組みー

NPO法人 境川緑のルネッサンス
副理事長 片岡 慎泰

<始めに>

境川護岸改修ふるさとの庭の向こうもかわりゆくなり

蛇行した境川に囲まれた屋敷に育った町田市歌人の河原ミサ江は、河川改修により無機質なコンクリートの護岸に変わり行く境川に人生の移ろいを重ね合わせてこのような歌を詠んでいる。

しかし、境川流域には古来より多くの人々が住み、そこで形成された文化は簡単に記憶から忘れ去られるものではない。人々の河川との共生は、過去の文化を再発見し、新しい文化の形成を促している。

本日は『エコミュージアム』という名称のもとに、境川への取り組みの一部を紹介し、新しい河川文化の形成の一助になることを期待したい。

<境川について>

古来、川の名称は、そこを流れる地域の名前で呼ばれていた。我々が活動対象とする境川は、下流は鎌倉時代の御家人で、その後は地名となった俣野を使って『俣野川』とか、現在の藤沢市の地名を使った『藤沢川』といわれていた。また中・上流は高座郡を流れることから『高座川』とか『高倉川』とか呼ばれた。その後、武蔵国と相模国との境界を定める折りに『境川』となった。大閤検地の頃である。

流域には、縄文時代の住居跡の『月見野遺跡』や祭司に用いられたといわれる『田端のサークルストーン』がある。平安時代に入ると道路が整備され、都より東国に通じる幹線道路の駅宿の一つの『店屋』が町田市鶴間の町谷あたりに所在したとされる。

中世をしのぶものとしては、鎌倉幕府やその滅亡に関連する遺跡が点在している。

近世に入ると、12年に一回だけ観音様をご開帳する、武相観音48めぐりが盛んになった。

2級河川としてなんとなく肩身の狭い境川ではあるが、洪水の恐れが大きい1級河川の流域より多くの人々が集まり、社寺や石碑、さらに生活文化が今も残っているので。

<境川エコミュージアム>

境川をテーマとした活動を展開するために、私たちのNPOでは『エコミュージアム』の考え方を取り入れた。それは、地域住民が中心となり、身の回りの自然、産業、歴史・文化などの地域資源を再発見し、それらを保全、活用、継承していく活動だ。

我々の流域文化の再発見の作業は、平成15年に町田市より境川散策絵図の作成委託を受けてから本格的に始まる。従来の行政単位の地図ではなく、境川を軸に町田市と接する相模原市、大和市、横浜市に点在する社寺を取り込む。会員で手分けして現地調査を重ねて作成された。

この絵図を文化活動のシンボルとし、相模原市と大和市と町田市に分割された旧鶴間郷の民俗文化を学ぶための『鶴間未来塾』を立ちあげ、さらに流域の旧村単位に散策会を企画した。

昨年からは、文化庁の助成を受け、親子を対象に七夕祭りなど伝統文化行事をテーマに、教室を開催している。文化活動の拠点づくとして、大和市が2年前に民家を再生した『ふるさと館』の指定管理者制度に応募するが、みごと落選したりもした。

農業遺産の保全としては、地域の田畑の農業用水確保としてつくられた堰跡を特定し、説明板を設置した。地域内に数箇所確認しているので、さらなる設置を計画している。

また用水路に平行して通る自然の『青道』がコンクリートで舗装されないよう、草刈りや花壇づくりの保全活動に日常的に取り組んでいる。

<景観づくり活動>

法人の発足時より、『境川の景観づくり』を活動目標に置いていた。

境川沿いに点在する、旧河川や調整池などの未利用の地域資源を整備することにより流域の景観の向上を図って来た。昨年、河川環境管理財団の助成を得て完成した『境川・鶴間せせらぎ広場』はその成果の一つである。

地域にある大学を囲む道路への不法投棄を防ぐ方策の一つとして、道幅を狭めるために張り巡らせたフェンスや無機質な警告看板を撤去し、広々とした道路空間を取り戻すことに成功する。この活動は町田市の『アダプト・ア・ロート(道路里親制度)』に基づき運営されている。

この活動が行政により評価され、市民への道路の大切さを訴える道路美化リーフレット『m i c h i』の制作受託に発展した。

現在は、昨年発表された国土交通省の『新しい景観形成と保全の考え方』に基づき、今までの活動の集大成としての景観計画づくりとして地域の河川景観モデルの作成に取り組んでいる。河川周辺の公共フェンスの色彩統一による色彩景観づくりを目指し、今年度も河川環境管理財団の助成を得ることができた。

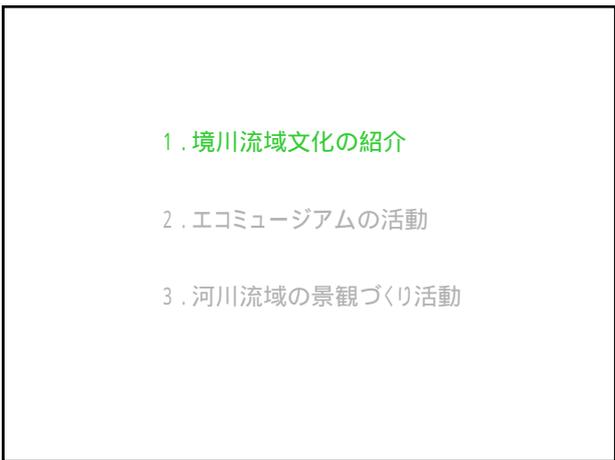
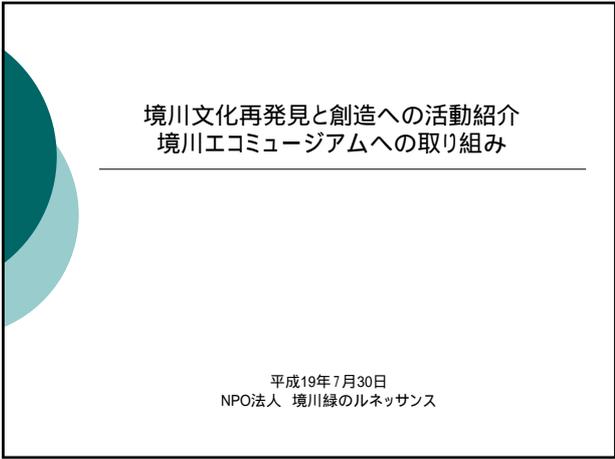
<ふるさとの川>

『ふるさとの川よ／ふるさとの川よ／よい音をたてて流れているだろう／・・・』多摩郡相原村大戸に生まれた八木重吉の『ふるさとの川』の詩は、生家の前を流れる境川のせせらぎの音に、ふるさとを思う心が込められている。

河川改修が既に始まっていたが、この大戸地区あたりは、まだ人手が入らない自然が残る清らかな流れの川だった。

我々が活動する鶴間地区の境川は、既にその両岸をコンクリートで囲まれているが、川辺を散歩する人達に耳に快いせせらぎの音を与えてくれる箇所を残している。川床の草と対岸の林の緑が、この地域の子どもたちにとって境川は、この都市化された環境下でのふる里である。

八木重吉の『境川への思い』を、後世に伝えられるような活動が、我が法人に課せられた使命だと認識を新たにする。



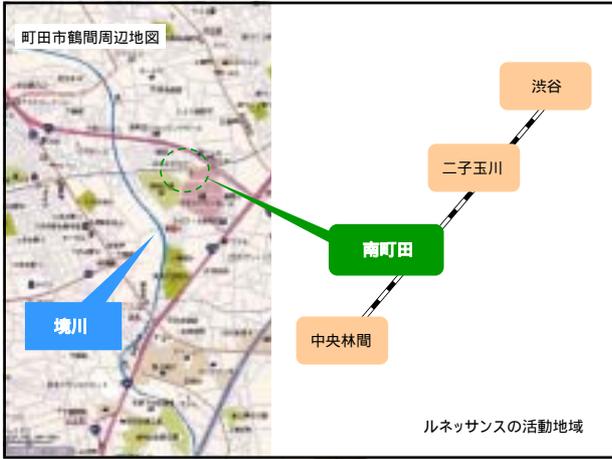


町田市より委託制作した
『境川散策絵図』

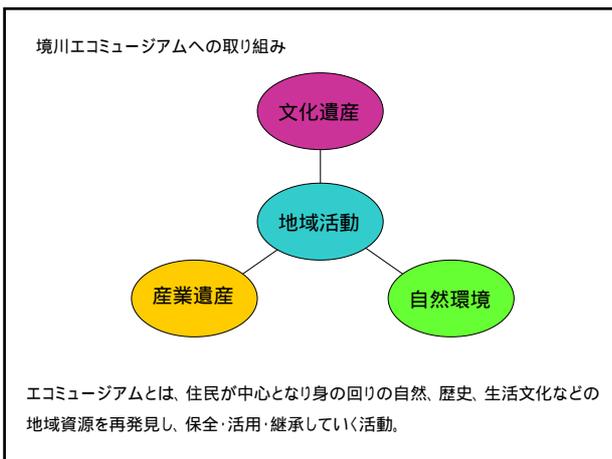


境川流域に見られる歴史遺産の例

- 月見野原遺産群
- 田端のサークルストーン
- 延喜式古代道路
- サバ神社信仰



1. 境川流域文化の紹介
2. エコミュージアムの活動
3. 河川流域の景観づくり活動





鶴間未来塾
歴史散策



活動拠点確保
の取り組み

大山街道から見たふるさと館

改装された旧小倉邸の蔵

鶴間 伝統文化こども教室 参加者募集

下鶴尾を町域中心に展開する鶴間町行事、地区ごと活動単位、その連携や歴史的背景を踏襲し、これらをもとに、日本の伝統文化を継承に込める活動に繋がります。

5月(きつき)早月
6月(みなづき)水取月
7月(ふみづき)文月
8月(はづき)桑月
9月(ながづき)長月
10月(かんなづき)神無月
11月(しもづき)霜月
12月(しわざ)師走
1月(むつぎ)睦月
2月(ふさらぎ)如月
3月(やよい)弥生
4月(うづき)卯月

● 鶴間町内各「伝統文化教室」から、年齢・性別問わず、誰でも参加可能。
● 参加費：無料
● 申し込み：鶴間町民センター
● 申し込み先：〒241-0201 鶴間町民センター
電話：0476-21-1111

伝統文化の
啓蒙活動



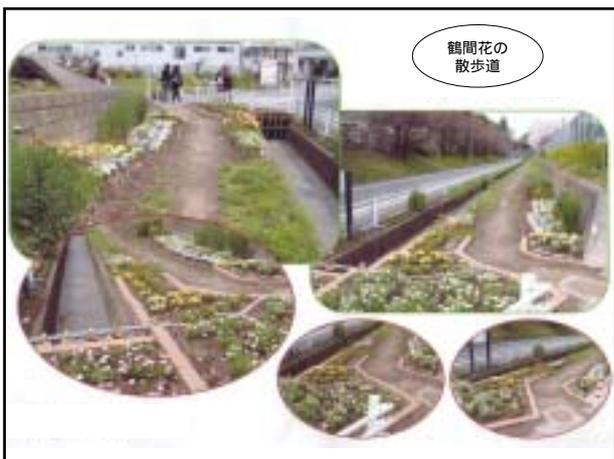
伝統文化
こども教室



- 1. 境川流域文化の紹介
- 2. エコミュージアムの活動
- 3. 河川流域の景観づくり活動









みんなで作ろう！「どじょう池」から「たんぼ」まで

みんなで作る野川ビオトープの会

会 長 田 中 兄 一

< ビデオの概要 >

1 . 野川周辺の歴史

野川縄文遺跡発掘例

2 . 文化的背景

大岡昇平（小説家）、中村研一（洋画家）など

3 . 野川ビオトープの会の発足と活動

池掘り、通水式、どじょうの日（自主的維持管理）、定例連絡会、昆虫観察会

4 . 野川自然の会の発足と活動

自然再生事業への取り組み、田植え風景

5 . 今後の取り組み

みんなでつくる野川ビオトープの会 (略称：野川ビオトープの会)

野川は、東京の武蔵野を流れる中小河川です。この野川は、国分寺市を源流とし、小金井市、調布市、三鷹市、狛江市をとり、世田谷区で多摩川に合流しています。多摩地域の中でも比較的都心に近いこれらの地域では自然が少なくなっており、野川は、子どもたちが生きものに触れ学ぶ場所として、貴重な空間となっています。生きものの生息空間を広げ、子どもたちがいつでも、安全に生きものに触れることができる場所が求められていました。



ギンヤンマ



オイカワ



ドジョウ



メダカ

このような状況の中で、平成10年8月、市民団体「野川ほたる村」は、市民参加による野川第一調節池でのビオトープづくり

について、東京都北多摩南部建設事務所に要望書を提出しました。

この要望書は、野川第一調節池北側U字溝には、僅かながら途切れることなく湧水が流れ、生きものが生息していることから、この湧水を生かして野川のオアシス作りを実現し、また、このオアシス作りに関しては、計画段階からの市民の参加を求めるものでした。



完成したどじょう池



平成12年7月に「野川ほたる村」を母体として、市民、小金井市、北南建の3者で構成する実行委員会を経て

「みんなでつくる

野川ビオトープの会」

として設立されました。設立直後から市民に呼びかけ月1回、チビッコ達も参加し、自らスコップを持って、野川第一調節池に池を掘りました。池は東京都北多摩南部建設事務所に仕上げを依頼して13年4月に完成し、小金井市長、北南建所長の出席のもと通水式を行ない

「どじょう池」と命名

しました。



早春のどじょう池



どじょう池の春



日没のどじょう池



冬のどじょう池

当会の活動としては、北多摩南部建設事務所との連携を前提とした池及び水路の維持管理、植栽管理、ごみ等の収集運搬、ならびにビオトープ創出活動に関する周辺住民、利用者へのPR、理解の増進、情報の提供と多岐に渡っています。現在、当会は会員30名を擁しています。

みんなで作る野川ビオトープの会 (略称：野川ビオトープの会)

ビオトープの設置から数年の時を経て、「どじょう池」には様々な生きものが生息するようになりました。子どもたちは池で遊び、生きものと触れ合っています。

会員はどじょう池の様子を見に行くことはもちろん、毎月第4日曜日には、「どじょう池の日」

として、池周辺のメンテナンス及び清掃活動を行っています。また、毎月第一月曜日に例会を開き、どじょう池における活動報告をはじめ、野川関連の情報交換、湧水の状況の報告などを行っています。

どじょう池の日



水路の補修



石入れ

さらに、7月には東京都と共催で「きみも昆虫はかせになろう！～野川の生きもの観察会～」

と銘打ち、「どじょう池」とその付近で子どもたちのための昆虫観察会を開催し、平成19年現在ですでに7回を数えています。このようなイベントの成功は当会と小金井市及び北南建との緊密な連携の結果であると自負しております。

また「どじょう池」には“禁止事項を設けない”

という会の方針があります。子供達に“泥んこになって遊んでもらいたい、メンテナンスはオジサン達がやるから”という思いがあるのです。

きみも昆虫はかせになろう！ ～野川の生きもの観察会～



どじょう池で



昆虫を追って



草いきれの中で



閉会式

行政との連携が当会の最大の特徴と言っても過言ではないと思います。このような取り組みが全国に広がることで、子どもたちが自然や生きものに触れ合う場所が増えていくことを期待しています。

この度具体化した

野川の「自然再生事業」

は私たち「野川ビオトープの会」の成功が少なからず好影響を与えているとの事で、ここ数年間の着実な活動の結果とひそかに自負している次第です。

野川の自然再生

案内図



自然再生ってなに？

自然再生とは、過去に損なわれた自然を取り戻すことを目的に、地域の多様な主体が参加し、自然環境を保全、再生、創出、維持管理することをいいます。

野川では、都立武蔵野公園内につくられた洪水調節池（野川第一・第二調節池）を対象に、地域と都とが『自然再生協議会』を組織し、湿地や田んぼなど、かつての多様な自然環境の再生に取り組んでいます。

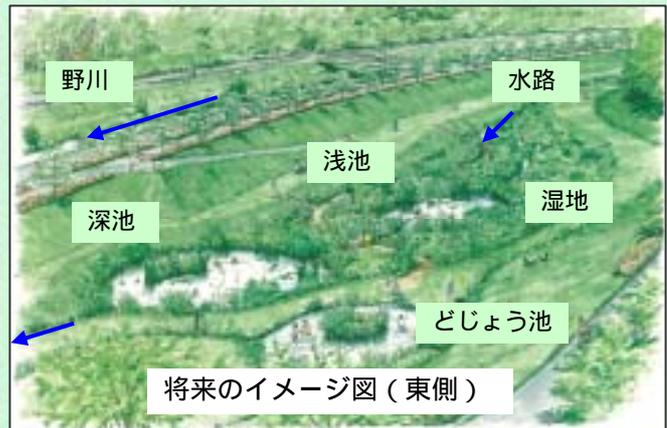
どうやって自然を再生するの？

自然再生の目標：かつてあった水のある豊かな自然環境を再生

昭和30年代前半、周辺地域に存在した「水のある農の風景」を基本とする豊かな自然環境を再生していきます。



整備中・整備後の継続的な観察を通じて、環境の変化に応じた事業展開を行っていきます。



維持管理はどうするの？

市民が中心となって維持管理等の活動をおこなっていくために、管理運営団体「野川自然の会」を組織しました。

「野川自然の会」(管理運営団体)

- ・維持管理
- ・モニタリング
- ・環境整備

野川第一・第二調節池地区自然再生協議会

- ### 河川管理者
- ・調節池機能の管理
 - ・モニタリング
 - ・基盤整備



東京の川を考えるシンポジウム2007
みつけよう！身近な川、東京の川（東京の“川の文化”再発見） -

事例紹介・・・“川の文化”を育む取組み

（財）東京都公園協会 水辺事業課公益担当係長 中安俊太

協会の使命 東京の公園や水辺環境の利活用を通して、都民生活に安らぎとゆとりをもたらし、東京の文化を世界に発信することを協会の使命とします。

公益事業の3本柱 防災・教育（河川事業の普及啓発）・水辺魅力アップ

地元住民との連携協働による取組み

事 例

[防災] ・ 防災訓練

[教育] （河川事業の普及啓発）
 ・ リバーガイドボランティア
 ・ テクニカルツアー
 ・ ボランティア清掃活動
 ・ 河川ボランティア団体への助成

[水辺魅力アップ]
 ・ 花守活動
 ・ オープンカフェテラス
 ・ オープン花テラス
 ・ 両国テラスギャラリー支援
 両国花テラス、花守活動（レイズドベッド）
 両国 納涼水辺まつり

防災訓練②



リバーガイドボランティア②



テクニカルツアー④



ボランティア清掃活動⑤



河川ボランティア団体への助成(1)

(財)東京都公園協会が、東京都が管理する河川において、河川環境保全等を目的として、河川の清掃や水質調査等の活動を行うボランティア団体に対して、助成金を交付します。

河川ボランティア団体への助成(2)

対象団体等は、

- ・河川で環境美化等の活動を行っている団体です。
(例：河川や調節池の清掃、水質調査、護岸壁面の安全・見回り等)
- ・対象となる河川は、東京都が管理している河川です。
- ・河川管理者である東京都建設局の各建設事務所が河川清掃等ボランティアであることを把握している団体です。
- ・1団体への助成は、年度(4月1日から翌年の3月31日)3万円が限度です。

花守活動④



オープンカフェテラス②



オープン花テラス③



両国花テラス⑥



両国地区花守活動(レイズドベッド)③



テラスギャラリー支援イベント

両国 納涼水辺まつり

日時 平成19年8月24日(金)

午後4時から9時まで

場所 隅田川テラス

(両国地区総武線上流左岸)

地元7町会・商店会 共催